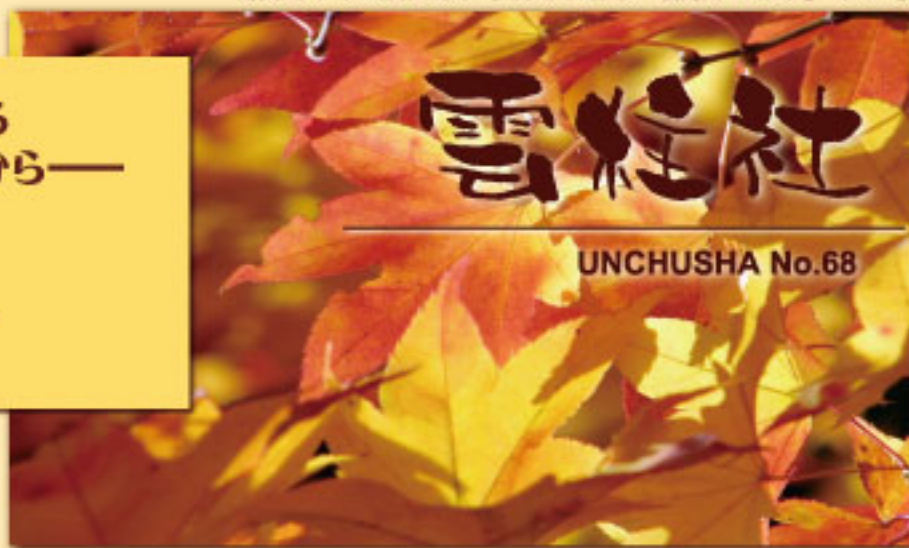


つながり、支えあって生きる

つながり、支えあって生きる ——雲柱社の今、これから——

雲柱社の設立から現在まで

カガワエピソード 賀川ハル / 雲柱社 豆知識
新刊のお知らせ / 親子で楽しむ絵本



そなたは賀川と雲柱社の活動を 願って見ていきましょう

1938年 雲柱社設立

この時代の日本は日中戦争の只中で、軍国主義化が本格化しつつありました。この年、国家総動員法が可決され言論が厳しく制限されるようになりました。



1938年、賀川の社会事業の母体として財団法人雲柱社が認可され、賀川が初代理事長に就任、彼を中心として幼稚園や託児所の経営、神戸大水害の救援活動、中之郷信用組合の結成、国内外での伝道活動などが展開されていました。翌年の伝道旅行では、賀川がインドのマドラスを訪れて、ガンジーと会見しています。

1940年 賀川逮捕される

雲柱社設立のわずか2年後、賀川は反政府的な言動や行動の首謀者として軍に拘束されました。公的な言動が厳しく制限される中、主に伝道、生協運動、著作活動などに尽力しました。この間に設置された社会事業施設のほとんどが1945年の空襲で消失しました。



上段：当時、豊後県伊予長浜にあった雲柱社の建物
中段：左から世界連邦アジア会議、江東消費組合
下段：左から賀川著作物、賀川資料館の賀川書誌棚

つながり、支えあって生きる

——雲柱社の今、これから——

雲柱社は、まもなく七〇年の節目を迎えようとしています。

設立は一九三八年、日本が暗い谷間に陥りつつある時代でした。二年後の一九四〇年に、雲柱社の設立者、賀川豊彦は反戦運動の嫌疑で逮捕され、公的な言動がきびしく制限されることになり、第一線からの撤退を余儀なくされることになりました。その後、彼が力を注いだのは、伝道活動、生協活動、著作活動でした。賀川は、これらの活動を通して、人々がつながり、支えあって生きる社会がどうすればできるのかを、真剣に考え、取り組んだのでした。

第二次大戦後、日本社会は奇跡的な復興を果たし、賀川が考え、取り組んだ多くの運動が、法律や制度として目の目を見ることになりました。

しかし、これらの制度や法律は真に活かされているのでしょうか。今こそ、賀川が願った信頼と温かさ、これらの制度や法律の中に取り込んでいかなければならないでしょう。

雲柱社の諸事業は、この原点に立ちつつ歩み続けていきたいと思います。



伝道活動：賀川豊彦の活動はすべて自身のキリスト教信仰に基づいていました。各地の集会には多くの聴衆が集いました。



生協運動：初期の雲柱社では松沢生協の設立を支援し、関東地方における生活協同組合結成の拠点となりました。各地に生活協同組合が設置され、現在でも生協やCO-OPという名称で広く親しまれ、活動を継続しています。

“人々がつながり
支えあう社会は
どうやって
できるのだろうか…”
(→二面へ続く)



著作活動：代表作の「死線を越えて」のほか、雑誌連載、風刺画、児童書、詩、短歌など、さまざまな作品を生みだしました。



KAGAWA EPISODES カガワエピソード

今号は、雲柱社設立当時の賀川豊彦とその活動を紹介しました。雲柱社は賀川の信念であるキリスト精神を土台に事業を始めました。しかし賀川豊彦の諸活動は、けっして彼一人で担ってきたわけではありません。表舞台に出ない多くの無名の人々が、賀川の考えに共鳴し協力してきたからこそ今日の結実を言えることができたのです。中でも賀川の妻ハルは、まさにベスト・パートナーだった人物です。各事業の経理担当者として実務に従事し、婦人運動の先駆けとして「賞励婦人」紙を発行し、家庭においては賀川豊彦の心の支えになりました。ハルは事業の細かい問題から女性職員の上相談、お金の配分や理事として社会事業の直接運営までこなしてきました。妻として母として、また婦人運動家、社会事業家として仕事と家庭を見事に両立させて活躍したのです。

明治・大正時代、若きハルは身の危険を顧みず、非常に治安の悪かったスラム地域に賀川の働きを助けるために飛び込み、結婚してからも一貫して賀川の働き

豊彦を支えた愛の人 賀川ハル



を助けました。当時蔓延していた結核に苦しんでいた人々を昼夜を問わずに看病しました。自らは眼病にかかり失明に至るのですが、それを隠しながらも病者のケアを続けました。食にも行動にもつましい生活を送っていた豊彦でしたが、このような弱者に対するハルの献身的な姿に感動し、その心からの奉仕に感銘して、夫婦となったのでした。

とかくハルの存在や働きは豊彦の影に隠れがちですが、雲柱社理事、日本ろうあ学校監事、基督教婦人矯風会監事を歴任し、豊彦の死後一九六〇年から、(財)イエス園と(財)雲柱社の理事長となり、一九六九年には(財)本所賀川記念館の理事長にも就任します。これらの功績により東京都は「名誉市民」の称号を一九八一年に授与しています。詳しくは加藤重著「わが妻恋し」(産聲社)をご覧ください。(作家瀬戸内寂庵氏は加藤重氏の同窓生で推薦文を書いていました)。「雲の柱」二一〇号(松沢資料館)のハルについての対談もお勧めです。またハルの資料をまとめた『賀川ハル資料集』が松沢書房より出版予定です。彼女の働きは雲柱社の歴史にとどまらず、近代女性運動史上重要な軌跡を残していることは確かでしょう。そのハルを豊彦がどう思っていたか、晩年に綴った一篇の詩を以下に紹介します。

新刊 BOOK

『賀川豊彦 ——愛と社会正義の使徒』

アメリカ人の目から見た賀川豊彦とは？当時世界的に著名だった「トヨヒコ・カガワ」について、新聞記者としての冷静な捉え方で綴った賀川豊彦の生涯の物語。一読の価値あり！



ロバート・シルジエン著
イエスの友会訳 賀川豊彦記念 松沢資料館監訳
(原 著：Toyohiko Kagawa
— Apostle of Love and Social Justice)
定価 4,200 円 (本紙ご覧の方は 4,000 円)

機関紙「雲柱社」第68号
発行年月日：2007年11月10日
発行所：財団法人・社会福祉法人・学校法人 雲柱社
編集責任：編集長 藤澤 栄
編集：雲柱社 広報担当

各事業の詳細は各法人のホームページをご覧ください。
財団法人 雲柱社 (<http://zaidan.unchusha.com>)
社会福祉法人 雲柱社 (<http://fukushi.unchusha.com>)
学校法人 雲柱社 (<http://edu.unchusha.com>)

お問い合わせ：本紙についてのご意見・ご質問・ご感想は、koho@unchusha.com または 03-3302-2855 (賀川資料館内 広報担当) までお寄せください。

～わが妻恋し～

わが妻恋しいと恋し
三十九年の泥道を
ともにふみきし妻恋し
工場街の裏道に
貧民窟の街頭に
共に祈りし妻恋し
憲兵隊の裏門に
未決監の窓口に
泣きもしいでたたずみし
わが妻恋しいと恋し
千万金をてにしつつ
襦袢の袖口につくろいつ
人に施す妻恋し
財布の底をはたきつつ
黒口な強き妻恋し
あられに霜に雪鳴に
傘もささずに走り行く
強きわが妻いと恋し
緑の髪は白くなり
肌には深き皺よせて
若きわが妻いと恋し
雷のわが妻いと恋し
めしみの夫の手を引き
めくみ教える妻恋し

(1950年12月6日/家園伝道中の賀川がハルに送った書翰より)



柴野民三原作
いちとようご文・絵
定価 1,200 円

EHON 「おもいをどうぞ！」

くまさんの畑でたくさんおもちがとれました。「そうだ、お隣のぶたさんにも分けてあげよう！」小さな畑のほとりで暮らす動物たちのこころあたたまるお話です。

